

## 一般社団法人日本老年歯科医学会 2022 年度第 11 回理事会議事録

日時：2023 年 3 月 3 日（金）17：30～20：30

WEB 開催

### 出席者

水口俊介理事長、羽村章副理事長、片倉朗副理事長

上田貴之、池邊一典、小野高裕、山崎裕、會田英紀、菊谷武、戸原玄

古屋純一、吉田光由、松尾浩一郎、河相安彦、渡邊裕、大神浩一郎、菅野亜紀、柏崎晴彦、岩佐康行

平野浩彦、大野友久、田中彰、糸田昌隆、服部佳功、弘中祥司、枝広あや子、金澤学

各理事（24 名）

山根源之、森戸光彦 各監事（2 名）

鈴木啓之、竜正大、高橋利士、奥野健太郎、奥村拓真、吉見佳那子、畑中幸子、高橋賢晃、日高玲奈  
伊藤誠康、渡邊理沙、大久保真衣、川本章代、若杉葉子、遠藤眞美、白部麻樹、吉岡裕雄、貴島真佐子、  
田中恭恵、尾立光、森下志穂

各幹事（21 名）

渡邊郁馬、山根 瞳、小正 裕 各名誉会員（3 名）

### 欠席者

高橋一也、阪口英夫、越野寿 各理事

山添淳一、豊下祥史、古屋裕康、尾崎研一郎 各幹事

### **I. 開会の辞（羽村副理事長）**

羽村副理事長より、日本歯科医学会会長賞受賞のご報告があり、日本歯科医学会会長賞への推薦に対する御礼とともに、開会の辞が述べられた。

### **II. 理事長挨拶**

水口理事長より、各理事からの活発な議論を通じて、本学会の担うべき事項について理事間で共有していくことにより、適切な学会運営を実施していくことが重要であることが伝えられた。

### **III. 議長選出**

定款第 32 条に従い、水口理事長が議長として選出された。

### **IV. 確認事項**

1. 定足数の確認〔定款第 32 条、理事現在数（30 名）の 2 分の 1 以上の出席〕

上田常任理事（総務担当理事）より、定款第 32 条、理事現在数（30 名）の 2 分の 1 以上である、23 名（開始時点で）の出席があり、定足数を満たしていることが報告された。

2. 2022 年度第 10 回理事会議事録（JSG プラットフォーム参照）

水口理事長より、2022 年度第 10 回理事会議事録が確定した旨が報告された。お気づきの点などがあれば、会期中にご連絡いただきたい旨が依頼された。

## V. 協議事項

### 1. 老人保健健康増進等事業「介護保険施設における歯科専門職による口腔管理に関する調査」(渡邊理事)

- 1) リーフレット
- 2) 動画「食事と低栄養」「お口の中を清潔に保つ意義」「噛み合わせを維持することの重要性」
- 3) その他

渡邊理事(特任(老健事業)委員会委員長)より、資料を用いて老人保健健康増進等事業の説明がなされた。老人保健健康増進事業において介護施設における口腔衛生管理に関する普及啓発を目的(歯科職が介護職や家族に向けて説明する際に使用するもの)としたリーフレットおよび動画(リーフレット内にあるQRコードから読み取り可能)に関して説明がなされ、厚生労働省担当者からもお褒めの言葉を頂いたとの報告がなされた。来年度以降は本リーフレットや動画を利用しながらさらなる普及啓発に取り組む予定であることが説明された。また、本件については、老健事業委員会と歯科衛生士関連委員会との協力の上で作成したことが合わせて説明された。

水口理事長より、改めて理事の先生方にリーフレットおよび動画内容に関して、ご確認いただきたい旨が依頼され、渡邊理事より、3月10日を目処にご意見があればご連絡いただきたい旨が説明され、最終的には理事長一任として承認された。

### 2. 高齢者施設職員向け口腔ケアリーフレット対応動画について

古屋理事(在宅歯科医療委員会委員長)より、資料を用いて高齢者施設職員向け口腔ケアリーフレット対応動画について説明がなされた。

本動画については、老人保健健康増進事業の動画作成と同時に作成したものであり、特任(老健事業)委員会および歯科衛生士関連委員会と協力して、口腔清掃や義歯の洗浄についての動画を作成したこと説明された。作成した動画に関しては、在宅歯科医療委員会において以前に作成していた、高齢者施設等における口腔ケアに関する注意点のリーフレット内において準備中としていたものであることが合わせて説明された。理事の先生方にご確認いただき、ご意見があればご連絡いただきたいとの依頼がなされ、最終的には理事長一任として承認された。

### 3. 学会広報用リーフレット リニューアル版について

河相理事(広報委員会委員長)より、資料を用いて学会広報用リーフレット リニューアル版(患者、医療機関、関連の老健等に配布する予定)について説明された。理事の先生方にご確認いただき、ご意見があればご連絡いただきたい旨の説明され、最終的には理事長一任として承認された。

戸原理事より、配布先として医療機関はどこを想定しているかとの確認があり、河相理事より、リストを作成して送付することは予定していないが、学会のプレゼンスを示すことも目的としているものであり、本学会員のみならず多くの関係者が目にできることが望ましいと考えていることから、理事の先生方より配布先についてのご意見があればご連絡いただきたいとの依頼がなされた。

水口理事長より、他学会の学術大会などで配布することも検討する必要があるのではないかと意見があり、広報委員会において検討することとなった。

### 4. 2023年度事業計画案について

水口理事長より、資料を用いて2023年度事業計画案について説明がなされた。

戸原理事(ガイドライン委員会委員長)より、急性期脳卒中患者の口腔管理に関するガイドラインについて、事業計画案においては終了となっているが、ガイドライン作成の進捗状況から来年度も継続する可能性も考えられることから、来年度事業においても継続実施へ変更することとなった。

### 5. 2023年度予算案について

山崎理事(財務委員会委員長)より、資料を用いて2022年度収支報告および2023年度予算案について説明がなされた。

月次収支報告(2022年4月1日~3月1日まで)において、収入の部では、研修会運営事業収入、認定事業(摂食嚥下療法専門歯科医制度)、研究費助成金の3項目が執行率30%台と執行率が低くなっているものの、全体の執行率は約78%(約9600万円)であることが報告された。また、支出の部では、第33回学術

大会の収支が確定したこと、研修運営事業、認定事業（摂食嚥下療法専門歯科医制度）、各種委員会活動事業費、研究活動事業費、支部活動費などの執行率が低くなっていることが報告され、全体の執行率は約 69%（約 8380 万円）となり、黒字経営（約 1200 万）となっていることが説明された。

### 1) 2023 年度予算案

山崎理事（財務委員会委員長）より、2023 年度予算案については、2022 年度の執行率を加味して、収入および支出の予算案を設定したことが説明された。

本予算案上では、190 万円の赤字を想定しているが、繰越金が 2100 万程度あるため、学会運営に問題はないと考えられる旨が説明された。一方で、学術大会の運営に関して、オンラインやオンデマンドの併用などにより学術大会開催に多くの経費が必要となっているのに対して、参加者や協賛企業からの収入が少なくなっている（コロナの影響により）ことから、このままの状況が続くと赤字が継続するものと考えられるため、今後検討する必要がある旨が説明された。

### 2) 特定商取引法に基づく表記

山崎理事（財務委員会委員長）より、資料を用いて特定商取引法に基づく表記について説明がなされた。学会としての商品（学会参加費）に対する課税の有無などについて明文化し学会ホームページに提示することが特定商取引法により求められていることが説明され、ホームページに掲示することが理事会にて承認された。

## 6. 急性期脳卒中患者の口腔管理に関するガイドラインについて

戸原理事（ガイドライン委員会委員長）より、資料を用いて急性期脳卒中患者の口腔管理に関するガイドラインについて説明がなされた。

概ねガイドライン作成作業が終了しているが、3 月中の完成は難しい可能性もあるため、3 月中に完成しない場合には、次年度も継続してガイドライン作成作業を行うことが説明され、承認された。

## 7. 厚生労働省 オンライン診療に関する研究班への協力について

戸原理事（ガイドライン委員会委員長）より、資料を用いて厚生労働省 オンライン診療に関する研究班への協力について説明がなされ、研究班へ本学会が協力することが承認された。

東北大学の佐々木啓一先生が中心とした ICT を用いて歯科治療に関するプロジェクトであり、遠隔医療を歯科に導入することを目的としたものであることが説明され、D to P および D to P with DH の有用性に関するエビデンスを蓄積していく研究班が立ち上がる予定であり、厚生労働省との打ち合わせを実施（本学会からは戸原理事、菊谷理事が委員、中川量晴先生がオブザーバーとして参加）したことが報告された。歯科治療が終了した患者を対象として、口腔機能低下症や摂食嚥下に関連する指導をオンラインにより実施した場合の効果と、対面実施の場合と比較（ヒストリカルコントロールを想定）していくことを予定しており、摂食嚥下療法専門歯科医師の先生方にご協力いただきデータ採取をしていくことを予定している旨が説明された。

菊谷理事より、本研究班は令和 6 年度の診療報酬改定に向けて、歯科においてもオンライン診療が実施できるようにすることを目的としたものであり、医科において認められている D to P の有用性を検討することにより診療報酬改定につなげていく予定であると説明され、障害者歯科学会と小児歯科学会も参加し全世代的にオンライン診療が可能となるように働きかけを行っていくことを目的としていることが報告された。

田中理事より、口腔内所見を取得するためのデバイスに関して質問があり、戸原理事より、歯科医師と患者をつなぐ際に、患者側でセッティングがうまく行かない可能性も想定されることから、研究班から、セッティング済みのタブレットとスマートフォンをご協力いただき先生方に配布（Ready to use）して、利用していただくことを想定していることが説明された。田中理事より、本会の対象者はデバイス（スマートフォンやタブレットなど）の使用法などの面から問題が生じる可能性も考えられることから、検討していただき、進捗をお伝えいただきたい旨の依頼がなされた。

小野常任理事より、D to P with Physician という形式についても検討していく予定であるかとの確認があり、戸原理事より、今後そのような形式も検討する必要があると思われるが、D to P with Physician を毎回設定することは困難である場合もあり、D to P もしくは D to P with DH を基本としたいと考えていることが説明された。

## 8. 診療参加型臨床実習 生体情報モニタリング案について

會田理事（教育委員会委員長）より、資料を用いて生体情報モニタリング案について説明がなされた。理事会資料に記載されている実習マニュアル（デモンストレーション用パワーポイント）をご確認いただき、ご意見があればご連絡いただきたい旨の説明がなされ、最終的には今回提示している実習マニュアル（一部図表などを修正したもの）を、会員に配布し、ご利用いただきたいと考えている旨が説明された。

## 9. その他

### ・学会広報用パンフレットについて

戸原理事より、学会広報用のパンフレットを学生や研修医の目にも触れられるように、大学への配布も検討することが提案され、水口理事長や上田理事より大学への配布自体は問題ないと考えられるが、大学に設置してある資料は多いことから、大学への配布を行うのみとするよりも、本学会理事の先生方が直接学生などに渡す形式（例として講義の最後に学生に直接配布）の方が効果的ではないかとの意見があった。また、学生・研修医向けのパンフレットの作成も検討することが提案され、広報委員会にて検討することとなった。

### ・研修会について

渡邊理事（研修委員会委員長）より、昨年度研修会の開催が限定的であったことことから、次年度は各委員会より研修会の企画案を積極的にご提案いただきたい旨が依頼された。

### ・特任（老健事業）委員会について

渡邊理事（特任（老健事業）委員会委員長）より、今後次世代を担う若手会員を育成していきたいと考えている（近日中に次年度の研究計画書を作成するため、後進育成にも適切なタイミングであると考えられる）ことから、特任委員会のメンバーとして若手会員のご推薦をいただきたい旨が依頼され、水口理事長からも各理事の先生方に対して、特任委員会メンバーのご推薦いただくよう依頼がなされた。

### ・老年精神医学会関連

枝広理事（特任（認知症）委員会委員長）より、日本老年精神医学会（枝広理事が同学会多職種連携推進委員会委員）から本学会とのコラボレーション希望があることが報告され、日本老年精神医学会に関連している他職種（社会福祉士、精神保健福祉士、精神科医など）の先生を関連するシンポジウムや勉強会の講師として招聘ができる可能性があるため、もしそのような企画を計画している場合にはご連絡いただきたいとの依頼がなされた。

### ・特任（認知症）委員会について

枝広理事より、認知症対応に関する教育について検討中であり、今後関連する委員会にご協力をいただきたいと考えている旨が報告された。

## VI. 報告事項

### 1. 会務報告

#### 1) 日本歯科医学会 評議員会および日本歯科医学会会長賞授与式について

水口理事長より、日本歯科医学会会長賞授与式が2月24日に開催され、本学会の羽村副理事長が受賞（教育分野）されたことが改めて報告され、羽村副理事長より改めてご推薦および受賞の御礼が述べられた。

#### 2) 日本老年学会

水口理事長より、資料を用いて、以下の内容について日本老年学会理事会（1月28日開催）の報告がなされた。

- ・ロゴマーク
- ・高齢者および高齢社会に関する検討WGメンバーとして岩崎正則先生を推薦する旨
- ・次期老年学会理事長として荒井秀典先生を推薦する旨
- ・日本老年学会に日本老年薬学会の加盟申請がなされ、理事会にて承認された旨
- ・後援：第18回 Key Symposium 「長寿と健康長寿：ブルーゾーンから何を学ぶ？」

<https://www.okinawa-congre.co.jp/key-symposium2023/jp/>

開催 2023年5月12日(金)～13日(土)

テーマ: Longevity and Healthy Ageing: What can we learn from Blue Zones?

会場：沖縄科学技術大学院大学（OIST）

### 3) 日本歯科専門医機構

水口理事長より、日本障害者歯科学会、日本有病者歯科学会と共に検討している総合歯科専門医（仮称）の研修プログラムについて資料を用いて説明された。

研修施設や研修方法に関しては、各学会とともに今後議論を継続していく旨が報告された。

渡邊理事（研修委員会委員長）より、研修内容に関して、有病者など老年歯科に関する研修は実施可能であると考えられるが、障害児や障害者（障害者歯科）に関わる研修を本学会として実施することは困難であると考えられるとの意見があり、水口理事長より、今後議論を行っていく内容ではあるが、専門医の中でもある程度守備範囲を決められるような専門医を設定する必要があると考えていること、複数の研修施設にて研修するような方策を検討する必要があること、歯科医師会と協力して歯科医師会の障害研修や認知症対応の研修などを含めていくことを検討していくことが説明された。

### 4) その他

## 2. 総務報告

- ・会員状況
- ・会費未納者
- ・今後の会議スケジュール

上田理事（総務担当）より、資料を用いて学会会員人数やその変化、会員構成などについて説明され、合わせて今後の会議スケジュールについて説明された。

学会費未納者について、各理事の所属されている分野の先生方にはお声がけいただきたい旨が依頼され、退会希望の場合には、退会の手続きをしていただく（退会手続きをしない場合には除名処分となる）よう依頼がなされた。

各委員会より常任理事会に上程する内容があれば、4月17日の常任理事会（常任理事会の1週間前を目処に）までに、事務局および総務までご連絡いただきたい旨の依頼がなされた。

水口理事長より、2023年6月の理事会（学術大会時に実施）は対面での開催を予定していること、理事懇親会も実施予定であることが説明された。

## 3. 第33回学術大会 決算報告（小野理事）

小野理事（第33回学術大会大会長）より、学術大会へのご協力に対する御礼とともに資料を用いて第33回学術大会の決算報告がなされ、約1950名が参加したことが報告された。

収入の部として、学会参加費、企業寄付金、共済金、地方自治体からの助成金などを含めて、31,698,232円、支出の部として、事前準備費（オンデマンド制作費が当初予定よりも増加）、当日運営費（会場の増加、ライブ配信などを行ったことにより当初の予定よりも程度増加）などを含めて31,698,232円となったことが報告され、講師接遇費として、学会本部に立て替えていただいている費用（約149万）があることも報告された。

水口理事長より、オンデマンドについては今後も何らかの形で継続していく必要があると考えられるため、費用対効果の面を検討する必要がある、オンデマンドの参加者数や同時中継を聴講した参加者についての資料を提供していただきたいとの依頼があり、小野理事より、会期中のライブ配信に関しては難しい可能性が考えられるが、オンデマンドのアクセス数については資料として提出可能であると説明された。

水口理事長より、池邊理事（学術委員会委員長）に対して、オンデマンドの費用対効果などを含めたデータの蓄積とその解釈について検討していただき、今後の効果的な学術大会運営に繋げていきたいとの依頼がなされ、常任理事会および学術委員会内にて検討することが承認された。

#### 4. 第34回学術大会 準備状況報告について

菊谷理事（第34回学術大会大会長）より、資料を用いて第34回学術大会の準備状況報告がなされた。

##### 1) プログラム概要

日本老年歯科医学会としての学会会場は、3会場（講演用）に加えてポスター会場と設定していること、開催形式は対面に加えて一部オンデマンドを予定していることが説明された。

各委員会からの企画があったシンポジウムはすべて実施（各委員会委員長よりシンポジウムに関する情報を改めて収集させていただいている状態）すること、大会校として4つの特別講演を準備していること、各種認定審査、課題口演、一般口演、ポスター発表、ランチョンセミナー（6セミナー）、飲茶セミナー（3セミナー）を予定していることが説明された。

##### 2) タイムテーブル

予定している3会場の収容人数が合計1000名となっており、第33回学術大会のように2000名近く来場した場合には、すべての参加者を本学会会場に収容することが困難であるため、第34回学術大会が老年学会との合同大会という点を活かして、参加者に合同シンポジウムや合同ポスターを参加者に楽しんでいただけるようなタイムスケジュールとしていることが説明された。

##### 3) 予算案

予算案について資料を用いて説明がなされた。

当日会費の値上げ（12000円→15000円に値上げ）を実施したことが改めて説明された。

##### 4) 日本老年学会総会 準備状況

##### 5) 理事懇親会について

2023年6月15日（木）14時～17時半までTKPガーデンシティ PREMIUM 横浜ランドマークタワーにて理事会を実施、18時より理事懇親会（重慶飯店新館）を実施する予定であることが説明された。

理事懇親会と同時に老年学会会長招宴が予定されている（未定）ため、調整が必要な可能性があることが報告された。

##### 6) その他

#### 5. IAGG-AOR2023 準備状況について

松尾理事より、資料を用いてIAGG-AOR2023（2023年6月12日～14日）の準備状況について説明がなされた。日本老年歯科医学会からの参加者を増やしていきたいと考えているため、参加登録のお声かけ（early birdが3月15日まで、参加費の支払い完了する必要あり）をお願いしたいとの依頼がなされた。

池邊理事より、オーラル13演題、ポスター23演題の登録あり、査読の結果、4演題がオーラルとして採択され、残りの演題はポスターとして採択されたこと、Gerodontologyのシンポジウムは3つのシンポジウムが開催され、開催日時は6月12日（月）の1日に集約される予定であることが報告された。

小野理事より、企業協賛については想定していた数を集められたことが説明された。本学会は学会会員数が多いため、多くの登録者が期待されているため、発表者のみならず、共同発表者にも積極的に登録していただくよう呼びかけていただきたい旨が説明された。

#### 6. 第35回学術大会準備状況について

山崎理事（第35回学術大会大会長）より、第35回学術大会の準備状況報告がなされた。

2024年6月27日（金）～6月30日（日）まで、札幌コンベンションセンターにて開催する予定であることが報告され、開催形式は、対面および一部オンデマンドを予定していること、北海道医療大学にもご協力いただきながら、学会テーマなどを検討していることが報告された。

現在検討している内容（学会テーマや学会紹介動画など）については6月の横浜での学会においてお披露目させていただきたい旨が報告された。

## 7. 日本歯科医学会プロジェクト研究について

### 1) 令和3・4年度 実施報告

大野理事（病院歯科委員会委員長）より、病院歯科関連での実施した3つの研究課題の進捗状況が説明され、すべての研究課題のデータ採取が終了したこと、論文化に向けて進んでいることが報告された。

### 2) 令和5年度研究申請に向けて

池邊理事（学術委員会委員長）より、資料を用いて、令和5年度研究申請について説明がなされ、渡邊理事および戸原理事より研究課題の提案（3課題）があり、今後学術委員会内でブラッシュアップを行っていくことが報告された。追加でご提案いただける研究課題があれば、週明けまでにご連絡いただきたい旨が依頼された。

事務局より、現在募集しているものはテーマ案であり、研究テーマに関しては日本歯科医学会より提示されるものであることが説明され、研究テーマとして本学会が応募できる内容が日本歯科医学会より提示されるために、現在テーマ案を募集していることが説明された。

## 8. 老年歯科医学教育の実態調査 準備状況

會田理事（教育委員会委員長）より、資料を用いて老年歯科医学教育の実態調査の準備状況報告がなされた。6年ぶりに教育の実態調査を行う予定であることが改めて説明され、前回の調査において問題となった回答者を規定できなかったことを解消し、各大学の歯学部長もしくは学長に依頼して、回答責任者（1名）を規定していただくことができるように、国立大学には国立大学歯学部長会議、私立大学には日本私立歯科大学協会にて実態調査実施の事前告知を行った旨が説明され、今後は各大学の回答責任者を決定していただき、5月の連休明けを目処にアンケートを実施する予定であることが報告された。アンケート方法は、プラットフォーム上で実施し、各大学に一つのIDおよびPWを配布した上で、誰でも回答できるような状態とした上で、最終的な回答を各大学の回答責任者が取りまとめて学会に回答していただくことを予定していることが説明された。

戸原理事（より、老年歯科医学教育については、各大学にて実施状況に差があると過去のアンケートでもわかっていることから調査報告をまとめるとともに、各大学へのフィードバックも必要ではないかとの意見があり、會田理事より、実態調査の結果は、老年歯科医学に論文投稿や、第35回学術大会にて報告することを予定しているが、結果を調査に協力していただいた、歯学部長や学長宛にフィードバックを行うことも検討していくことが説明された。

弘中理事より、歯科医師国家試験の得点率からも大学間で格差（高齢者の摂食嚥下に関する内容など、教育の差が明確に出ている状況がある）があることから、学会としても何らかの対応が必要であり、今回のアンケートの結果から出題内容の見直しや教育の見直しが進む可能性があると考えられることが説明された。国会試験の出題基準にあるにも関わらず、学生が教育されていない実態があることが現在問題となっていると報告された。

菊谷理事より、以前に実施した教育のアンケートにおいて、65歳以上の保存修復や歯周治療などをすべて老年歯科医学の教育であると認識している大学が見受けられたことから、アンケートの精度などを検討する必要があると説明され、會田理事より、今回のアンケートについては回答責任者を規定するため、提出されたアンケートを確認した上で、必要に応じて問い合わせを行うことも可能であるため、以前より精度が上昇する可能性が期待できることが説明された。

弘中理事より、出題基準が「配慮が必要な」高齢者・有病者・障害者と変更になったことから、出題基準を参考資料とすることを検討してもよいのではとの意見があった。

奥野幹事より、睡眠歯科学会において実施した教育アンケートにおいて、学会より推奨される教育内容をアンケート内に盛り込み、その実施状況に対する回答を集積したことが情報共有され、各大学での教育内容の実態が把握しやすいのではないかと提案があった。

## 9. 老年歯科医学用語辞典の発行準備状況について

大神理事（学術用語委員会委員長）より、資料を用いて老年歯科医学用語辞典第3版の発行準備状況報告がなされた。

用語辞典は現在印刷段階まで進んでいること、学会員に対しては、4月末日に送付を行う予定であること、第2版は学会誌と同封であったが、今回は別での送付となることが報告された。

歯科衛生士校より用語辞典の購入希望があったことが報告され、学期始め（4月10日）の納品を希望していることに対応するため、理事長および副理事長に納品（3月末を予定）、内容を確認後に、4月10日付け

で歯科衛生士校に納品する予定でいることが説明された。

用語辞典の一般販売については、会員への送付が終了した後に開始する予定でいることが説明された。

## 10. 地域包括ケア委員会

1) 次年度研修会予定について「地域包括ケアにおける MCS(Medical Care Station)の活用

2) 多職種連携に役立つ用語集 (WEB 版) の作成について

岩佐理事 (地域包括ケア委員会委員長) より、資料を用いて、次年度の地域包括ケア委員会の事業計画について説明がなされた。

次年度研修委員会と協力した上で、研修会 (「地域包括ケアにおける MCS(Medical Care Station)の活用」など) を予定していること、学術用語委員会と協力した上で、多職種連携に役立つ用語集 (WEB 版) の作成を計画していることが説明され、各委員会にも今後ご協力いただきたい旨が依頼された。

水口理事長より MCS についての確認があり、岩佐理事より医師会などにおいて導入が進んでいる医療・介護の多職種連携 SNS ツールであり、豊島区やまんのう町など大小様々な自治体で導入されているツールであることが説明された。

菊谷理事より、MCS の現状 (基本無料で使用可能な医療・介護専用 SNS であり、地域 (小金井、三鷹、武蔵野、国分寺など) でも使用が進んできていること、患者ごとにグループができその中に医師、歯科医師、訪問看護師が入り在宅の連携を図るもの) が説明され、地域において各医師会のもと ICT 連携部会ができ、MCS を使用した連携が活発に行われていることが報告された。

大神理事より、MCS に関するシンポジウムを学術用語委員会企画として 2 年前に実施したことが報告された。

## 11. 支部運営委員会および地域包括ケア委員会 業務所掌について

水口理事長より、支部運営委員会および地域包括ケア委員会の業務所掌について説明された。

支部セミナーを含めた支部運営について、支部運営委員会が所掌委員会として引き続き、支部をサポートしていくこと、支部長会は支部からの意見やそれに関しての支部間の共有の場として重要であるため、本会の最重要機関の一つとして今後も積極的に運営していただくことが説明され、活発な支部長会は地域・支部からの学術大会参加のモチベーションとなるので、大会を盛会にするためにはぜひ盛り上げたいと考えていることが説明された。

支部から上がってきた事項についてのシンポジウム等の起案については地域包括ケアに関わることは地域包括ケア委員会と協議し、地域包括ケア委員会主体の事業として実施することが説明され、地域包括ケア委員会としては、特に多職種がかかわる問題についてシンポジウムをはじめとした事業を起案し実施していくこと、そのほかの地域に関わる事項については支部運営委員会と調整し実施していくことが説明された。

支部における課題については、支部運営委員会が窓口となり、必要があれば該当する所掌委員会と連携して対応していくこととし、支部からの困りごとやご意見は支部運営委員会が受け、速やかに常任理事会へ挙げていただき委員長と常任理事とともに議論し、対応すべき委員会に依頼する (地域に関することは、1 つの委員会の所掌だけでできるものではなく、教育研修に関することは研修委員会の力、診療報酬については社会保険委員会の力、在宅については在宅歯科医療委員会の力が必要) こととすることが説明された。

平野理事 (支部運営委員会委員長) より、櫻井薫名誉会員が理事長の時代 (2017 年開始) より、支部長の先生方が学会参加へのモチベーションとなるよう支部運営委員会のシンポジウムを企画する経緯となったことが説明され、過去には、「地域歯科医療から学会の役割を再考する」、「後期高齢者歯科検診を円滑に展開するためには」、近年では Covid-19 や栄養に関連する内容など、その時々で支部組織の先生方とのディスカッションした上で求められている企画を検討してきたことが報告された。支部の先生方が求めている内容に応じて、各委員会と連携を図りながら、企画について検討、調整しながら運営をしていきたいと考えていることが説明された。

岩佐理事 (地域包括ケア委員会委員長) より、支部運営委員会より提案があった内容を検討した上で、よりディスカッションを深めていけるような運営としていきたいとの説明があった。

## VII. 意見交換事項

### 1. 地域における高齢者の保健・医療の向上推進にあたり、複数の委員会での一体化した活動を目指して

水口理事長より、支部活動を始めとする地域において生じている様々な内容に対するサポートに関しては、日本老年歯科医学会の大きな役割であると考えているため、理事の先生方に協力していただきながら、議論をすすめて解決に努めていきたいと考えていることが説明された。

大野理事より、歯科のない病院に対する訪問歯科診療に関する対応についてはどの委員会の所掌となるのかとの確認があり、古屋理事より在宅歯科医療委員会としても、患者の生活の場という観点から、在宅歯科医療委員会も歯科のない病院に対する訪問歯科診療についても対応していることが説明され、今後病院歯科委員会との連携しながら検討していきたいことが説明された。

菊谷理事より、今後、歯科医師・歯科衛生士の病棟などの場面における活躍の場が増加していく中で、診療費（医科と歯科で別の再診料が必要となることなど）の整理などは今後検討していくべき内容であると考えられることが説明された。

戸原理事より、地域という観点から考えると、地域格差の問題があるため、地域ごとに何が不足しているのかなども今後検討していく必要があるとの提案があった。

羽村副理事長より、一般社団法人日本病院会会長が、すべての病院に歯科衛生士を導入するべきであると強く提唱しており、日本歯科医師会会長の交代に伴い、日本歯科医師会としても病院への歯科衛生士導入を推し進める可能性があり、日本老年歯科医学会としても検討していく必要がある内容であることが説明された。

菅野理事より、歯科衛生士の交流会において、訪問歯科を行っている歯科衛生士は不安を抱えながら一人で診療しており、相談できる場や歯科医師の存在が必要であるとの意見があったことが報告され、今後検討していく必要があると説明された。

### 2. 令和6年度診療報酬改正に向けた医療技術提案書作成に向けて

協議事項「7. 厚生労働省 オンライン診療に関する研究班への協力について」参照

### 3. その他

#### ・ECG2023について

松任理事（渉外委員会委員長）より、ECG2023の案内（9月14日～15日にストックホルムにて開催、抄録締切は5月12日）がなされた。

本会からの演者は3名の依頼があり、演者の選定へのご協力が依頼された。

上田理事より参加費（会員価格での案内が可能か否か）に関して確認がなされ、確認の上、松尾理事より共有することとなった。

山根監事より、今年度一年の学会活動および活発な議論に対する慰労とともに、今後の学会活動への激励の言葉が述べられた。

名誉会員から

渡邊郁馬名誉会員、山根瞳名誉会員より、活発な学会活動、委員会活動を継続していただき、学会会員のみならず、患者さんの意見が届くような学会となっただきたい旨、今後の学会活動への激励の言葉が述べられた。

## VIII. 閉会の辞（片倉副理事長）

片倉副理事長より、活発な議論を実施するために、事前の情報共有に今後ご協力いただきたいとの依頼がなされ、活発な委員会活動や議論を通じて学会が発展していくことへの期待とともに、閉会の辞が述べられた。